受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「フランクリン・テンプルトン 米国政府証券ファンド（愛称：メイフラワー号）」は2026年３月16日に第287期の決算を行いました。当ファンドは、フランクリン・テンプルトン 米国政府証券マザーファンドへの投資を通じて、フランクリン・テンプルトン・グループが運用する複数の外国籍ファンドに投資することにより、実質的に米国ジニーメイ・パス・スルー証券等の米国高格付け証券に投資を行います。当作成期におきましても、それに沿った運用を行いました。ここに運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

第287期末（2026年３月16日）	
基準価額	9,699円
純資産総額	14,362百万円
第282期～第287期	
騰落率	8.6%
分配金（税込み）合計	54円

（注）騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第２位を四捨五入して表示しております。
（注）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

フランクリン・テンプルトン 米国政府証券ファンド （愛称：メイフラワー号）

追加型投信／海外／債券

交付運用報告書

第282期（決算日2025年10月15日）
第283期（決算日2025年11月17日）
第284期（決算日2025年12月15日）
第285期（決算日2026年１月15日）
第286期（決算日2026年２月16日）
第287期（決算日2026年３月16日）

作成対象期間：2025年９月17日～2026年３月16日

FRANKLIN TEMPLETON

フランクリン・テンプルトン・ジャパン株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目５番１号

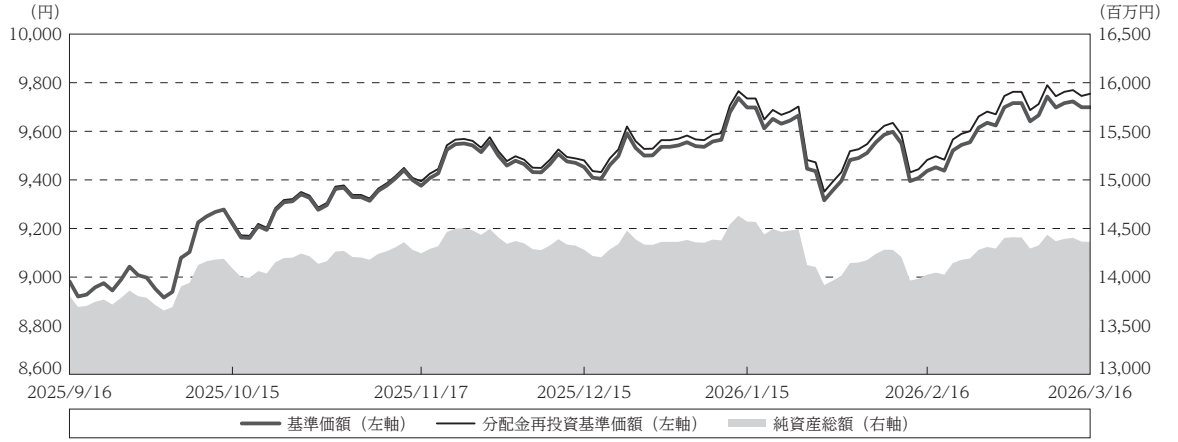
＜お問い合わせ先＞
電話番号：03-5219-5947
（営業日の9:00～17:00）
ホームページ：https://www.franklintempleton.co.jp
お客様の口座内容などに関するお問い合わせは、お申込みされた販売会社までお願い申し上げます。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。上記＜お問い合わせ先＞ホームページの「ファンド一覧」から当ファンドのファンド名称を選択することにより、当ファンドの詳細ページにおいて「資料・レポート」の中から運用報告書（全体版）を閲覧およびダウンロードすることができます。
○運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。交付を請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

（2025年9月17日～2026年3月16日）



第282期首：8,983円
第287期末：9,699円（既払分配金(税込み):54円）
騰　落　率：　8.6%（分配金再投資ベース）

（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
（注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
（注）分配金再投資基準価額は、作成期首（2025年９月16日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
（注）上記騰落率は、小数点以下第２位を四捨五入して表示しております。
（注）当ファンドがマザーファンドを通じて投資を行う投資対象ファンドは、特定のベンチマークを上回ることを目指して運用するものではありません。したがって、当ファンドもベンチマークを設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

「フランクリン・テンプルトン 米国政府証券マザーファンド」（以下、「マザーファンド」）を通じて投資した投資対象ファンドの分配金再投資基準価額は上昇しました。また、当ファンドの分配金再投資基準価額も上昇しました。詳しくは後掲の「■投資環境」をご参照ください。

なお、投資対象ファンドの主な変動要因は以下の通りです。
・投資を行っている米国高格付け証券（ジニーメイ・パス・スルー証券等）からのインカム
・投資を行っている米国高格付け証券（ジニーメイ・パス・スルー証券等）の価格変動

1万口当たりの費用明細

（2025年9月17日～2026年3月16日）

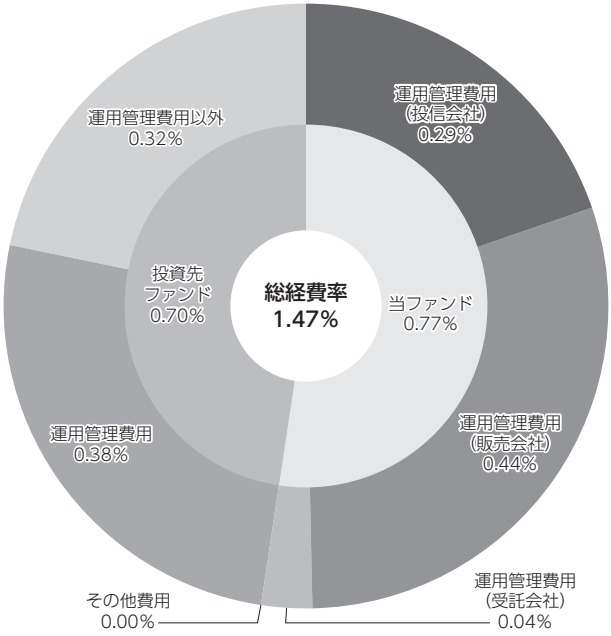
項目	第282期～第287期 金額	第282期～第287期 比率	項目の概要
	円	%	
(a) 信託報酬	36	0.382	(a)信託報酬＝〔作成期間の平均基準価額〕×信託報酬率
（投信会社）	(13)	(0.142)	ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、開示資料作成等の対価
（販売会社）	(21)	(0.218)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
（受託会社）	(2)	(0.022)	ファンドの運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) その他費用	0	0.001	(b)その他費用＝〔作成期間のその他費用〕／〔作成期間の平均受益権口数〕
（保管費用）	(0)	(0.000)	その他費用 ・保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 ・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（監査費用）	(0)	(0.001)	
合計	36	0.383	
作成期間の平均基準価額は、9,413円です。			

（注）作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。各項目の費用は、マザーファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。
当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」等が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要＜ご参考＞」に表示しております。
（注）各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
（注）各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）

◯総経費率

作成期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間の平均受益権口数に作成期間の平均基準価額（１口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.47％です。



（単位：％）

総経費率（①＋②＋③）	**1.47**
①当ファンドの費用の比率	0.77
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.38
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.32

（注）当ファンドの費用は１万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
（注）各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。
（注）各比率は、年率換算した値です。
（注）投資先ファンドとは、当ファンドのマザーファンドが組入れている投資信託証券です。
（注）当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。
（注）当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。
（注）上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近５年間の基準価額等の推移

（2021年3月15日～2026年3月16日）



（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
（注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
（注）分配金再投資基準価額は、2021年３月15日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2021年３月15日 決算日	2022年３月15日 決算日	2023年３月15日 決算日	2024年３月15日 決算日	2025年３月17日 決算日	2026年３月16日 決算日
基準価額　（円）	7,297	7,435	7,819	8,561	8,768	9,699
期間分配金合計（税込み）　（円）	－	108	108	108	108	108
分配金再投資基準価額騰落率（％）	－	3.4	6.6	10.9	3.7	11.9
純資産総額　（百万円）	17,920	16,152	14,765	14,982	14,059	14,362

（注）上記騰落率は、小数点以下第２位を四捨五入して表示しております。
（注）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
（注）騰落率は１年前の決算応当日との比較です。
（注）当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、フランクリン・テンプルトン・グループが運用する複数の外国籍ファンドに投資します。ファンドの収益率を測る適切なインデックスが存在しないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

投資環境

（2025年9月17日～2026年3月16日）

（米国金利とジニーメイ・パス・スルー証券市場）

米国債券市場では、利回りは上昇（価格は下落）しました。

期の前半は、2025年９月の米連邦公開市場委員会（ＦＯＭＣ）で市場予想通り0.25％の利下げが実施されたものの、会合後の記者会見で米連邦準備制度理事会（ＦＲＢ）のパウエル議長が追加利下げに慎重な姿勢を示したことを受け、利回りは上昇しました。一方、米政府機関閉鎖の可能性を巡る先行き不透明感から投資家のリスク許容度が低下したことが、利回りの低下（価格は上昇）要因となりました。

期の半ばは、次期ＦＲＢ議長候補として利下げ志向とみられるハセット国家経済会議（ＮＥＣ）委員長の名前が浮上したことなどを背景に、利回りは一時低下しました。しかし、その後は米雇用動態調査（ＪＯＬＴＳ）で求人件数が増加し、依然として労働市場の底堅さが示されたことから、利回りは上昇に転じました。

期の後半は、人工知能（ＡＩ）を巡る既存産業への影響懸念を背景に、安全資産とされる国債への需要が強まったことなどから、利回りは一時低下しました。作成期末にかけては、イラン情勢の悪化を背景に原油先物価格の高騰が続くなか、インフレ再燃を巡る懸念が高まったことから、ＦＲＢの利下げ観測が後退すると、利回りは上昇しました。

当作成期、ジニーメイ・パス・スルー証券の利回りは上昇しました。一方、住宅ローン金利の主要な指標金利のひとつであるフレディマック30年（固定）金利は低下しました。また、住宅ローンの借り換え指数も低下しました。

（外国為替市場）

当作成期の米ドル・円相場は、米ドル高・円安となりました。

期の前半は、自民党総裁選において財政拡張や金融緩和を志向するとされる高市氏が勝利したことを受けて、米ドルなどの主要通貨に対して円が大幅に下落しました。

期の半ばは、堅調な米雇用指標を受けて、米ドル高・円安が優勢となりました。また、高市首相が衆議院を解散するとの見方が浮上し、一段の財政出動による財政悪化が嫌気されたことも、米ドル高・円安の要因となりました。

期の後半は、日米両国が為替介入の前段階となるレートチェックを協調的に実施したとの観測が広がり、為替市場で円買いが進むなか、米ドル安・円高に転じました。しかし、作成期末にかけてはイラン情勢の悪化を背景とした原油先物価格の高騰を受けて、ＦＲＢの利下げ観測が後退したため、米ドル高・円安が再度優勢となりました。

当ファンドのポートフォリオ

（2025年9月17日～2026年3月16日）

（フランクリン・テンプルトン 米国政府証券ファンド（愛称：メイフラワー号））

運用の基本方針にもとづき、フランクリン・テンプルトン 米国政府証券マザーファンドへの投資を通じて、「フランクリン・テンプルトン U.S.ガバメント・セキュリティーズⅡ・ファンド（バミューダ籍投資法人）」および「フランクリン・テンプルトン・インベストメント・ファンズ－フランクリン U.S.ガバメント・ファンド（ルクセンブルク籍投資法人）」に投資を行いました。

当ファンドでは、当作成期を通じてマザーファンドの組入れを高位に維持しました。マザーファンドにおける当作成期末の投資対象ファンドの組入比率は、「フランクリン・テンプルトン U.S.ガバメント・セキュリティーズⅡ・ファンド（バミューダ籍投資法人）」が約７割、「フランクリン・テンプルトン・インベストメント・ファンズ－フランクリン U.S.ガバメント・ファンド（ルクセンブルク籍投資法人）」が約３割となりました。

（フランクリン・テンプルトン 米国政府証券マザーファンドの投資対象ファンド）

当作成期も、独自の分析手法を用いて、証券価格が割安に推移していると判断されるジニーメイ・パス・スルー証券に着目して、慎重な運用を行いました。組入銘柄の選定においては担保資産の分析に加え、期限前償還リスクを考慮し、相対的に魅力ある証券を組み入れました。クーポン別では、2.0%～6.0%のクーポンを持つ証券を中心に組み入れました。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2025年9月17日～2026年3月16日）

当ファンドはベンチマークや参考指数を設けていないため、本項目は記載しておりません。

分配金

（2025年9月17日～2026年3月16日）

当ファンドは、当作成期中の毎決算時に配当等収益を中心に以下の収益分配を行いました。

なお、留保された収益の運用につきましては、特に制限を設けず元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項　　目	第282期	第283期	第284期	第285期	第286期	第287期
	2025年９月17日～2025年10月15日	2025年10月16日～2025年11月17日	2025年11月18日～2025年12月15日	2025年12月16日～2026年１月15日	2026年１月16日～2026年２月16日	2026年２月17日～2026年３月16日
当期分配金	9	9	9	9	9	9
（対基準価額比率）	0.098%	0.096%	0.095%	0.093%	0.095%	0.093%
当期の収益	9	9	9	9	9	9
当期の収益以外	－	－	－	－	－	－
翌期繰越分配対象額	1,917	1,933	1,949	2,192	2,202	2,219

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

（フランクリン・テンプルトン 米国政府証券ファンド（愛称：メイフラワー号））

当ファンドは、「運用の基本方針」に基づき、引き続きフランクリン・テンプルトン 米国政府証券マザーファンドへの投資を通じて、主に「フランクリン・テンプルトン Ｕ.Ｓ.ガバメント・セキュリティーズⅡ・ファンド（バミューダ籍投資法人）」、「フランクリン・テンプルトン・インベストメント・ファンズ－フランクリン Ｕ.Ｓ.ガバメント・ファンド（ルクセンブルク籍投資法人）」に投資を行う方針です。「フランクリン Ｕ.Ｓ.ガバメント・セキュリティーズ・ファンド（米国籍投資法人）」への配分は分配金水準や資金フローなどを総合的に勘案して判断する予定です。

（フランクリン・テンプルトン 米国政府証券マザーファンドの投資対象ファンド）

米国の経済成長は、2025年10-12月期の政府機関閉鎖に伴う落ち込みを除けば、引き続き底堅さを維持しています。一方で、中東での紛争に伴う原油価格の上昇は、追加的なインフレ要因となる可能性があり、株式市場が下落した場合は個人消費が減速するリスクもあります。ただし、もし大きなショックが発生した場合には、政策当局が金融・財政政策の両面で景気を下支えすると考えており、運用チームでは、米国経済は市場予想を上回る成長率で拡大する可能性があると引き続きみています。

ＭＢＳについて、運用チームでは当セクターのファンダメンタルズに対して中立的な見方をしている一方、テクニカル要因は良好だと考えています。2026年に予定されている米政府支援機関（ＧＳＥ）による買い入れプログラムの影響は、今後注視すべき重要な要素となる可能性があります。

ジニーメイ・パス・スルー証券は米国政府が元利金の期日通りの支払いを保証する住宅ローン担保証券であり、実質的に米国国債と同等の信用力を有すると考えられています。上記の投資環境の下において、より有利な投資機会の発掘のために同証券を構成する住宅ローンに対する精査を徹底してまいります。慎重かつ規律正しい投資アプローチにより、期限前償還リスクを適切に評価し、投資対象証券の本来の価値と市場価値とのかい離を特定することで、より投資妙味のある証券への投資を行う方針です。

お知らせ

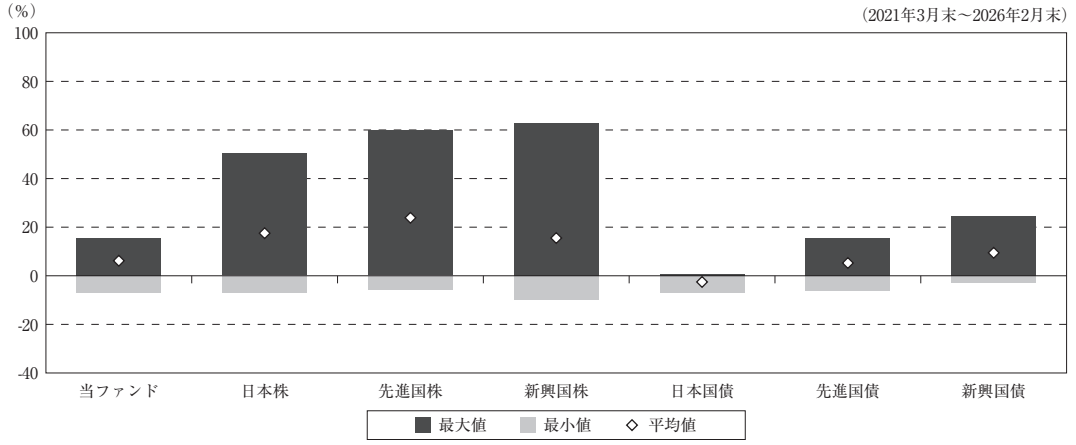
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	無期限（2002年３月26日設定）	
運用方針	信託財産の着実な成長と安定的な収益確保を図ることを目指してファンド・オブ・ファンズ形式で運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	フランクリン・テンプルトン 米国政府証券マザーファンド受益証券
	フランクリン・テンプルトン米国政府証券マザーファンド	・フランクリン U.S.ガバメント・セキュリティーズ・ファンド（米国籍投資法人） ・フランクリン・テンプルトン・インベストメント・ファンズ－フランクリン U.S.ガバメント・ファンド（ルクセンブルク籍投資法人） ・フランクリン・テンプルトン U.S.ガバメント・セキュリティーズⅡ・ファンド（バミューダ籍投資法人）
運用方法	主としてフランクリン・テンプルトン 米国政府証券マザーファンド受益証券への投資を通じて、米国ジニーメイ・パス・スルー証券（政府抵当金庫パス・スルー証券）等の米国高格付け証券に実質的な投資を行います。 フランクリン・テンプルトン 米国政府証券マザーファンド受益証券の組入れは高位を維持することを基本とします。	
分配方針	毎月15日（ただし、15日が休業日のときは翌営業日とします。）に決算を行い、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②分配金額は、委託者が配当等収益を中心に基準価額水準等を勘案して決定します。 ③留保益の運用については特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



（単位：%）

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	15.5	50.5	59.8	62.7	0.6	15.3	24.5
最小値	△ 6.8	△ 7.1	△ 5.8	△ 9.7	△ 6.9	△ 6.1	△ 2.7
平均値	6.2	17.5	23.9	15.5	△ 2.5	5.3	9.5

（注）全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
（注）2021年３月から2026年２月の５年間の各月末における直近１年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。
（注）上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。
（注）当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

（※）各資産クラスの指数
日 本 株…東証株価指数（TOPIX）（配当込み）
先進国株…MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）
新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）
日本国債…NOMURA-BPI国債
先進国債…FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）
新興国債…JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケッツ・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

（注）海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

○代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について
騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）
東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社ＪＰＸ総研又は株式会社ＪＰＸ総研の関連会社に帰属します。

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）
MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）
MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

NOMURA-BPI国債
NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社に帰属します。

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）
FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケッツ・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）
JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケッツ・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケッツ・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

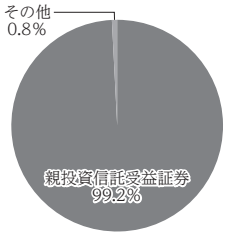
（2026年3月16日現在）

○組入上位ファンド

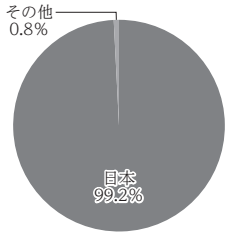
銘柄名	第287期末
	%
フランクリン・テンプルトン 米国政府証券マザーファンド	99.2
組入銘柄数	1銘柄

（注）組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

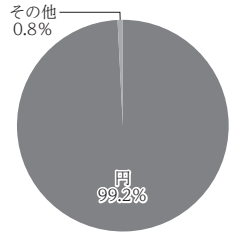
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



（注）比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。その他には現金等を含みます。
（注）国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

純資産等

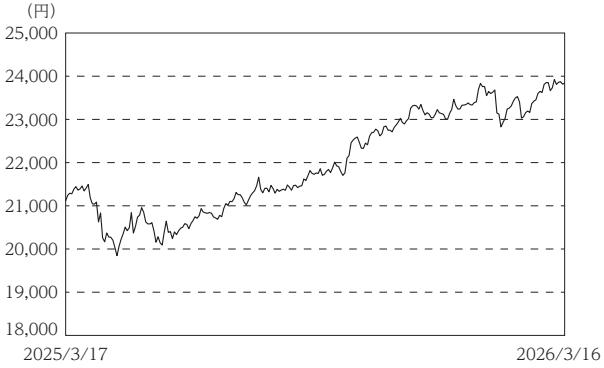
項目	第282期末	第283期末	第284期末	第285期末	第286期末	第287期末
	2025年10月15日	2025年11月17日	2025年12月15日	2026年１月15日	2026年２月16日	2026年３月16日
純資産総額	14,088,953,546円	14,244,889,099円	14,281,590,311円	14,571,258,224円	14,025,157,874円	14,362,028,159円
受益権総口数	15,281,878,383口	15,192,295,828口	15,108,517,923口	15,025,046,412口	14,862,398,537口	14,807,718,701口
１万口当たり基準価額	9,219円	9,376円	9,453円	9,698円	9,437円	9,699円

（注）当作成期間（第282期～第287期）中における追加設定元本額は21,769,041円、同解約元本額は584,196,689円です。

組入上位ファンドの概要

フランクリン・テンプルトン 米国政府証券マザーファンド（2025年３月18日～2026年３月16日）

○基準価額の推移



○１万口当たりの費用明細

（2025年3月18日～2026年3月16日）

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a) その他費用	0	0.001
（保管費用）	(0)	(0.001)
合計	0	0.001
期中の平均基準価額は、21,994円です。		

（注）上記項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。
（注）各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
（注）各比率は１万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第３位未満は四捨五入してあります。

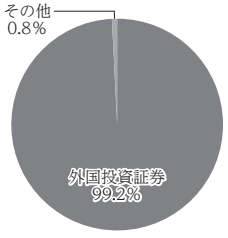
○組入上位ファンド

（2026年3月16日現在）

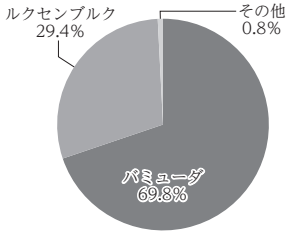
銘柄名	第24期末
	%
フランクリン・テンプルトン U.S.ガバメント・セキュリティーズⅡ・ファンド	69.8
フランクリン・テンプルトン・インベストメント・ファンズ－フランクリンU.S.ガバメント・ファンド	29.4
組入銘柄数	2銘柄

（注）組入比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。
（注）組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

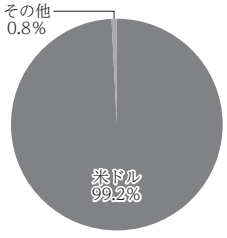
○資産別配分



○国別配分



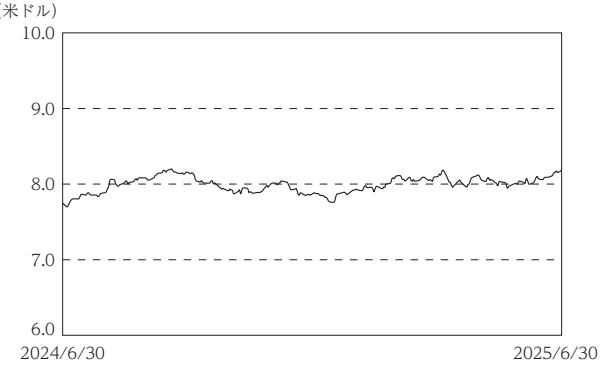
○通貨別配分



（注）比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
（注）国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。
（注）その他にはコール・ローン等を含む場合があります。
※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。

<ご参考> フランクリン・テンプルトン・インベストメント・ファンズーフランクリン U.S.ガバメント・ファンド (2024年7月1日～2025年6月30日)

○基準価額の推移



(注) 当ファンドが投資対象とするClass I (Mdis) USDの分配金再投資基準価額です。

○費用の明細

(2024年7月1日～2025年6月30日)

運用報酬	0.35%
管理会社報酬、保管銀行報酬、監査費用等	0.15%
合計	0.50%

(注) 当ファンドが投資対象とするClass I (Mdis) USDの数値です。
(注) 1万口当たりの費用明細に代えて、当期間における各費用の平均純資産総額に対する比率を記載したものです。

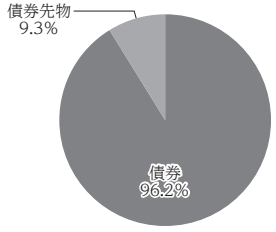
○上位10銘柄

(2025年6月30日現在)

銘柄名	比率
	%
GNMA MA4719 3.5% 09/20/2047	5.6
GNMA MA7534 2.5% 08/20/2051	4.3
GNMA MA6709 2.5% 06/20/2050	3.7
US 5 Year Note, 09/30/2025	3.7
GNMA MA7533 2% 08/20/2051	3.3
GNMA 6% 02/20/2055	3.1
GNMA MA7649 2.5% 10/20/2051	3.1
GNMA MA7936 2.5% 03/20/2052	2.7
GNMA 2% 01/20/2051	2.5
GNMA MA7472 2.5% 07/20/2051	2.3
組入銘柄数	537銘柄

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
(注) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。
(注) 組入上位銘柄および銘柄数は、当該投資対象ファンドの入手可能なAudited Annual Reportを基に作成しております。
(注) 組入銘柄数には先物を含みます。

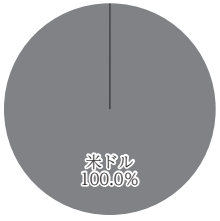
○資産別配分



○国別配分



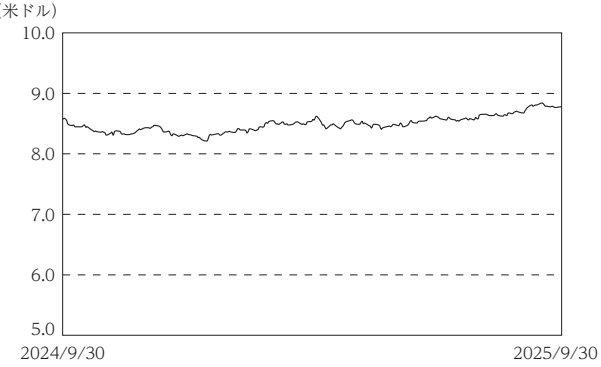
○通貨別配分



(注) 資産別・国別・通貨別配分のデータは2025年6月30日現在のものです。
(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
(注) 先物の比率は絶対値ベースで記載しております。

<ご参考> フランクリン・テンプルトン U.S.ガバメント・セキュリティーズⅡ・ファンド
(2024年10月1日～2025年9月30日)

○基準価額の推移



(注) 分配金再投資基準価額です。

○費用の明細

(2024年10月1日～2025年9月30日)

運用報酬	0.40%
管理会社報酬、保管銀行報酬、監査費用等	0.40%
合計	0.80%

(注) 1万口当たりの費用明細に代えて、当期間における各費用の平均純資産総額に対する比率を記載したものです。

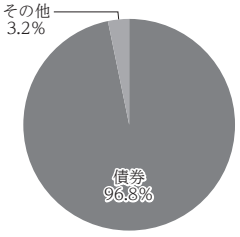
○上位10銘柄

(2025年9月30日現在)

銘柄名	比率
	%
GNMA II, Single-family, 30 Year, 2.5%, 1/20/52	6.6
GNMA II, Single-family, 30 Year, 5.5%, 8/20/55	3.9
GNMA II, Single-family, 30 Year, 3%, 10/20/51	3.8
GNMA II, Single-family, 30 Year, 3.5%, 9/20/47	3.6
GNMA II, Single-family, 30 Year, 3.5%, 11/20/47	3.2
GNMA II, Single-family, 30 Year, 2%, 8/20/51	3.1
GNMA II, Single-family, 30 Year, 2.5%, 7/20/51	3.1
GNMA II, Single-family, 30 Year, 5%, 9/20/54	2.7
GNMA II, Single-family, 30 Year, 5.5%, 9/20/54	2.6
GNMA II, Single-family, 30 Year, 2.5%, 10/20/51	2.6
組入銘柄数	86銘柄

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
(注) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。
(注) 組入上位銘柄および銘柄数は、当該投資対象ファンドの入手可能なFinancial Statementsを基に作成しており、クーポンや償還日によって集約されているものがあります。

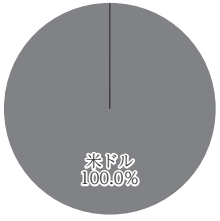
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 資産別・国別・通貨別配分のデータは2025年9月30日現在のものです。
(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。



FRANKLIN
TEMPLETON

フランクリン・テンプルトンは、創業以来
ベンジャミン・フランクリンの肖像画をロゴマークとしております。
創業者ルーパート・Ｈ・ジョンソン　Sr.は、
“With money and financial planning, prudence comes first.”
（お金を増やそうとするときに一番大切なのは、用心深さである。）
というベンジャミン・フランクリンのビジネス哲学に深く感銘し、
アメリカ建国の父でもあり、偉大な科学者、
そして優れた投資家でもあった彼の名を社名に冠しました。
ベンジャミン・フランクリンの肖像画を用いたロゴマークは、
ご投資家の皆様にとって、
フランクリン・テンプルトンの資産運用サービスに対する
信頼と安心の象徴となっております。